

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-25 兵庫人権会館 2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhyg@extra.ocn.ne.jp URL: <http://blrhyg.org/>



所長の諏訪山だより

祭日と入籍

いまでも「祭日」だとか、「祝祭日」という言葉をよく耳にする。医院の看板にも「休診：日・祝祭日」と書いてあったりする。しかし、祭日というものは、1948年7月に公布・施行された「国民の祝日に関する法律」によって廃止され、いまでは存在しないのである。

祭日とは、宮中祭祀のなかで天皇自らが親祭するもののうち、主要な祭祀の実施日で、1948年まではそれらが国民の休日となっていた。具体的には、1月3日の元始祭、春分の春季皇霊祭（春分の日）、4月3日の神武天皇祭、秋分の秋季皇霊祭（秋分の日）、10月17日の神嘗祭、11月23日の新嘗祭（勤労感謝の日）、12月25日の大正天皇祭である。このうちの3日が名称を変えて現在も祝日となっている。一方、祝日は1月5日の新年宴会、2月11日の紀元節（建国記念の日）、4月29日の天長節（昭和の日）、11月3日の明治節（文化の日）で、このうち3日が名称を変えて現在も祝日となっている。なお、新年宴会は宮中において新年の到来を祝う宴会が行われる日であり、紀元節は神武天皇が即位したといわれる日、天長節は天皇誕生日、明治節は明治天皇の誕生日である。結局、11日あった祝祭日は、すべて皇室に関わる日だったのであり、このうちの6日が現在も祝日とされている。また、1995年に制定された海の日は、1876年に明治天皇が「東北巡幸」を終え、「明治丸」という汽船で横浜港に帰着した日であり、これも皇室に関わる日なのである。

このように、戦前の祝祭日は、名称を変えて現在も生きているのであり、宮中祭祀や皇室の祝賀に合わせて国民が休日を取るという本質は変わっていないのである。「祭日」だとか「祝祭日」を口にする人がいまもいるのは、そのためだろうか。

祭日と同様、制度上は存在しなくなっただのに、いまでもごく普通に使われているのが入籍という言葉である。婚姻の届出と入籍を同義だと思っている人は多い。しかし、入籍とは自分の戸籍から出て、すでに存在する別の戸籍に入ることであり、戦前の三代戸籍の時代は、戸主と妻、そしてその長男や長女、次男などが記載された戸籍に長男と結婚した女性が従前の戸籍から入って来ることを入籍といった。そして、この長男夫妻に子どもが生まれても、同じ戸籍に記載されたのである。しかし、三代戸籍は家父長制を維持するものとして、1948年の戸籍法制定によって否定され、それ以降、婚姻を届け出た男女2人は、それぞれの戸籍から出て、2人で新しい戸籍をつくることになり、戦前のような結婚による女性の入籍はなくなったのである。したがって、従前の戸籍からすでにある別の戸籍に移る入籍は、現在では養子縁組や、離婚した男女のあいだで、何らかの事情により一方がもっていた親権が他方に移ったため、その子どもが元の親権者の戸籍から出て、新しい親権者の戸籍に入る場合などに限られる。

入籍という言葉が未だに使われつづける現代社会には、一つの妖怪が潜んでいるのかもしれない、—— 家父長制の妖怪が。

所長 石元清英



『関東大震災朝鮮人虐殺の記録』

東京地区別 1100 の証言』

西崎雅夫著、2016年9月、現代書館、9000円＋税

「あの日のことは忘れません。なんの罪もない朝鮮人が土手の坂にすわらせられ、きかんじゅうをひたいに向け一発で殺されていったことを」

「朝鮮人を一人つかまえたといって音楽学校のそばにあった交番のあたりで、男たちは棒きれをつかんで、その朝鮮の男を叩き殺したのです。わたしはわけがわからないうえ恐怖でふるえながら、それを見ていました。小柄なその朝鮮人はすぐにぐったりしました」

「父は78歳でなくなったが、たびたび死ぬまで夜中にひどくうなされるのを目撃した」「…自警団などにより虐殺された死体の山と、殺されて隅田川に投げ込まれた死体の“血の海”の中で収容され、群衆らに取り囲まれた講堂（練武場）で必死の思いで逃げ回った4、5日、17歳だった父の眼に焼き付いたものは想像に難くない」



厚さ4cm、500頁を超える本書に収められた証言の数々――。

1923年9月1日に発生し、総計10万人以上の死者が出た関東大震災では、混乱と不安の中、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「社会主義者や朝鮮人が放火している」などの流言が出まわり、多くの朝鮮人、中国人が住民が組織した自警団、ときに行政や軍隊などにも虐殺された。殺された朝鮮人は数千人と言われるが、詳細はわかっていない。「殺された場所・名前・人数・遺骨の行方など、大切なことがほとんどわかっていないのだ」。なぜか。当時の政府が徹底して隠蔽したからである。その後の政府も真相究明のための調査をしてこなかった。だから事件の公的資料は極めて少ない。

本書の著者、西崎雅夫さんは大学4年生だった1982年に結成された「関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し慰霊する会」（のち「追悼する会」）に、準備会から参加し活動してきた。当時は体験者、目撃した人たちも存命していた。会では聞き書きや韓国での調査とともに、毎年9月に荒川河川敷で追悼式をおこなってきた。虐殺現場の河川敷などに追悼碑を建立することをめざし、所有者の国と何度も交渉したが許可が得られず、現場に近い私有地を買い取って2009年にようやく建てることができた。

その後、西崎さんは（会で調査してきた墨田区だけでなく）「東京全体ではどうだったのか？」と考え、「事件から90年も経った今では、当時を語れる証言者はもういなくなった。それでも、出版された本や雑誌からならば、素人の私でも証言を集めることができるのではないか。そう気づいたときから4、5年かけて、東京都内の公立図書館を片っ端から訪れて、自伝・日記・郷土資料などから関東大震災時の朝鮮人虐殺に関する証言を集めた」。そうしてまとめられたのが本書である。志賀直哉や賀川豊彦など著名人の証言も多い。

「証言には、体験した本人しか語れない“具体性”があった。こうした証言からのみ、朝鮮人虐殺の実態が皮膚感覚として伝わってくるように思う」

怖ろしい事実を前になかなか読み進めることができないが、殺されたのは「数千人の朝鮮人」ではなく、そこで暮らし、学び、働いていた、一人ひとり、名前と人生、大切な家族や友人をもった「人」なのだ、とあらためて感じる。生き延びた人たちも、トラウマを抱えながら、その後の人生を生きた。

2013年、西崎さんは韓国で、当時東京に留学していて行方不明になったままの「祖父の遺骨を探してほしい」と頼まれた。韓国にいた祖母は、その後もずっと祖父の帰りを待ち続け、「おじいさんの遺骨を探し出して、私と一緒にのお墓に入れておくれ」と遺言を残したという。見つけることはできなかったが、同様の依頼は今も届く。「遺族にとって関東大震災はまだ終わっていない、私たちが決して終わらせてはならない」

関東大震災から約90年後の東京の路上では、「良い韓国人も悪い韓国人もどちらも殺せ」といったヘイトスピーチ（差別煽動）がおこなわれていた。ヘイトスピーチ解消法が2016年に施行されたが、各地でのヘイトデモはなくなっていない。

昨年（2017年）、小池百合子・東京都知事は、毎年9月1日に市民団体が都立横網町公園（墨田区）でおこなう「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」へ歴代知事が毎年送ってきた追悼文を送らないことを決めた。それに連動するかのように、同公園内の「追悼式」の目と鼻の先で、「6000人の虐殺は本当か 日本人の名誉を守ろう」という看板を掲げた集会が開かれた。

事実を「なかったことにしよう」とする動きに抗しつつ、「加害の歴史を直視することは容易ではない。でも、そこからしか未来は見えてこない」という西崎さんの言葉を肝に銘じたいと思う。 (H)

*個人ではなかなか買えない値段でもあり、多くの人に手に取ってもらうためにもぜひ学校や地域の図書館にリクエストしていただきたい。『九月、東京の路上で 1923年関東大震災ジェノサイドの残響』（加藤直樹著、2014年3月、ころから、1800円＋税）、『関東大震災』（吉村昭著、1977年、文春文庫、600円＋税）もお勧め。

「人権教育ひょうご」春季学習会

■日時：2018年2月24日（土）13：30～16：30（13：00受付）

■場所：ラッセホール 5階サンフラワー ■映画上映：『カニは横に歩く』

■講演：「「ともに生きる」を考える～障害者差別解消法と相模原事件の間で～」

講師：山田剛司さん（社会福祉法人えんぴつの家 事務局長）

■問合せ：「人権教育ひょうご」事務局（兵庫県教職員組合 兵庫教育文化研究所）

TEL：078-241-2345 FAX：078-242-5569

Eメール hyoukyouso-kenkyusyo@htu.or.jp

第9回ひょうご解放教育交流集会

■日時：2018年2月25日（日）10：00～16：30

■場所：淡路市立サンシャインホール

■記念講演：「人権教育の視点で「道徳」を考える」

講師：冨田稔さん（天理大学非常勤講師）

■問合せ：ひょうご解放教育交流集会実行委員会事務局（部落解放同盟兵庫県連合会）

TEL：078-222-4747 FAX：078-222-6976

Eメール hyoukyouso-kenkyusyo@htu.or.jp

2017年度『人権歴史マップ』連続セミナー⑤

「兵庫の朝鮮通信使」

■講師：仲尾 宏さん（（一社）在日コリアン・マイノリティ人権研究センター理事長）

■日時：2018年3月10日（土）14：00～16：00

■場所：兵庫県立のじぎく会館（ふれあいルーム）

■参加資料代：【一般】800円【会員・定期購読・学生】500円

中世から近世にかけて、朝鮮国より日本へ「信を通わす使」が派遣されていました。これを「朝鮮通信使」と呼びます。

通信使は15世紀後半から約150年間中断しますが、秀吉の朝鮮侵略に関係して再開されました。江戸時代には日本側の要請を受け12回派遣され、両国間の平和の維持と文化交流に大きく貢献することになりました。京や江戸まで行く際には、大坂までは海路を行ったので、室津や兵庫津などにも度々寄港しており、兵庫県にもゆかりがあります。

2017年10月、江戸時代の朝鮮通信使に関する記録が世界記憶遺産に登録されることが決まりました。日韓両国の協力の成果です。両国では通信使を記念する様々な行事が行われており、現代においても善隣友好の象徴となっています。

今回のセミナーでは、一般社団法人在日コリアン・マイノリティ人権研究センター理事長で、長年にわたり朝鮮通信使を研究されてきた仲尾宏さんに、「兵庫と朝鮮通信使」と題してご講演いただきます。

■お詫び

機関誌『ひょうご部落解放』の発行が大幅に遅れており、関係各位には大変ご迷惑をおかけしております。心よりお詫び申し上げます。163号（2016年12月25日付）、164号（2017年3月25日付）は、今年度中にお届けする予定です。また、165号と166号は合併号とし、これについても今年度中の発行を目指して編集中です。

長期間お待たせすることになります。誠に恐縮ではございますが、いましばらくお待ちくださいますよう、お願い申し上げます。

事務局から

- 神社仏閣巡りが好き！最近テレビで「ご利益があった！」と噂が広まり毎月1日限定で配布される白い氣守りが大人気らしい。秩父の山奥にある三峯神社…行きたい。（I）
- 研究所が各地の団体から依頼された人権研修で、神戸の町を案内することが度々あります。準備をして臨むのですが、思いもよらぬ質問を受け四苦八苦です(^_^)（Ka）
- 先日参加した忘年会。「『今年の漢字』がとっても残念だったので、それぞれ自分の『今年の漢字』を書いて一言」と幹事。で、「断」と書いた。一つの区切りをつけて、次は「捨・離」へGo♪（H）
- 2017年もたくさんのFWの御依頼を受けました。地元の方々のご協力あってこそその事業です。出会いとご協力に心より感謝申し上げます。さて、以下の映像は年末年始のプレゼント（人から教わったものですが）。FW熱上がっちゃいます。ぜひご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=ZenY2hnZns8&feature=share>（K）
- HUNTER×HUNTERデビューしました。しばらくポットクリンにハマりましたが、ワンピースのクオリティの高さに改めて気づかされます。おだっち最高！88巻が待ち遠しい…（ひ）